

**9 月 27 日(日)「第 34 回銀河賞」(BG2)の結果
～スターイチバン号が圧巻の末脚で 4 歳二冠達成！～**

2026 年 9 月 27 日（日）に行われた「第 34 回銀河賞」（4 歳オープン・BG2）は、単勝 1 番人気のスターイチバン号が第二障害を下りてから圧巻の末脚を見せ、4 歳三冠路線の二冠を達成しました。

馬場水分 0.9%、ばんえい重量 690 kg～750 kg、4 歳世代の精鋭 9 頭によって行われた本レース。各馬勢いよくスタートを切り、ホクセイテンリュウ号、スターイチバン号を先頭に第一障害を越えていきます。

道中は各馬が大きな差のない展開で、息を入れながら進んでいきます。中間点を過ぎたあたりからホクセイテンリュウ号が果敢に先行し、単独先頭で第二障害に到達します。

第二障害では、じっくりと息を入れたホクセイテンリュウ号が、全頭が障害下に揃う前に登坂を開始。ホクセイテンリュウ号が天板に差し掛かるころ、カワノブレーザー号ら 2 番手以下も続々と仕掛けます。ホクセイテンリュウ号がすんなりと障害をクリアし、これを追う形でスターイチバン号とラポピージュニア号が並んで障害を下ります。

障害を下りたスターイチバン号は鋭い末脚を見せ、一気にホクセイテンリュウ号との差を詰めて先頭へと躍り出ます。

先頭に立ったスターイチバン号は、その後も力強い脚色で後続との差を大きく広げ、圧巻の勝利。6 月の柏林賞に続く勝利で 4 歳三冠路線の二冠を達成し、重賞 5 勝目を飾りました。

2 着にはホクセイテンリュウ号、3 着にはラポピージュニア号が入りました。

スターイチバン号を管理する坂本東一調教師は、「銀河賞」をミソギホマレ号で制した 2022 年以来 3 度目の制覇。騎乗した阿部優哉騎手は「銀河賞」初制覇となりました。

記

<スターイチバン号のプロフィール> ※2026年9月27日現在

生年月日・毛色：2022年5月6日（牡4歳・鹿毛）

血統：父 インフィニティー 母 コトブキダイヤ （母父） ウンカイ

生産者：鈴木 義尚氏

馬主：干場 正吉氏

厩舎：坂本 東一厩舎

通算成績：33戦16勝（うち重賞5勝）



【坂本東一調教師のコメント】

言葉に出来ないくらい嬉しいです。
騎手がよく冷静に騎乗しました。新人に見合わない最高のパターンでの乗り方だったと思います。
優勝できるようなトレーニングを騎手がずっとつけていました。夏場の暑さの影響も全くありませんでした。
この馬は、パワーもあるし、前向きに行く所が凄いです。当然、三冠に向けて騎手も頑張っていくと思っています。ネクスト・メモロボブサップと言われていると思いますが、私もそう思っており、ボブサップの若いときよりもパワーがあると思います。
古馬の戦線で 790kg でも戦っているので心配はしていません。
将来、「ばんえい記念」に出るまでに健康状態を常に保とうと思っています。



これからもスターイチバンが盛り上げていくと思います。ばんえいのスターになるのを私も夢見ているので、応援よろしくお願いします。

【阿部優哉騎手のコメント】

二冠目も取れてホッとしています。
プレッシャーはあまり感じず気楽にいろいろと思っていました。
前回、ばんえいグランプリで初めて 790kg の重量を曳きましたが、今回はそれより 40kg 軽いので重量面に関しては特に問題はないと思っていました。
馬場も乾いていて、息も入り、良かったです。
一頭先行する馬がいて予定外でしたが、取り乱さず自分のレースをしました。
第二障害はキャンター気味になりましたが、上手く上がってくれましたし、下りてからも最後まで止まることはないだろうと思っていました。
ホクセイテンリュウを追い越したあたりから「勝ったかな」と思いました。
重賞を取れたのは乗せてくださった馬主さんのおかげですので、感謝しています。
三冠目（来年 1 月 3 日の天馬賞[BG1]）も取りたいと思います。皆さん応援よろしくお願いします。

以 上

<報道関係者 各位>

ご不明な点がございましたら以下までご連絡ください。

なお、掲載の写真等をご使用の際は【提供：ばんえい十勝】のクレジットの記載をお願いいたします。

ばんえい十勝 広報担当 藤田・中村・高尾・岩渕

〔電話〕帯広競馬場 0155-34-0825(代)

※火・水曜除く9:30～18:15 ナイター開催日（土・日・月）12:30～21:15

〔ばんえい十勝公式ホームページ〕 <https://www.banei-keiba.or.jp/>